



校訓「至誠」

# 母校 元小

学 校 だ よ り  
令 和 7 年 7 月  
川口市立元郷小学校  
児童数：432名



元郷小HP

## ～ いのちを大切にする ～ (3) 物や自然のいのちを大切にすること

校長 根本 広徳

梅雨前線が消えたり、現れたり、また、それに伴い6月としては例年とは異なる気候になりました。朝から気温が高いため、WBGT（熱中症指数）とにらめっこしながらの水泳指導となっておりますが、シャワーを浴びるときの子供たちの歓声を聞くと、改めて子供たちのエネルギーを感じます。

さて、前回に引き続き、「いのちを大切にする」についてみていきたいと思います。「いのちを大切にすること」には、(1) 自分のいのちを大切にすること、(2) 人のいのちを大切にすること、(3) 物や自然のいのちを大切にすることの3つがあります。今回は、(3) 物や自然のいのちを大切にすることについてです。「物や自然のいのちを大切にすること」には、①物や自然に感謝すること、②物や自然を大事にすることの2つがあります。

私たち人間が生きていくためには、毎日の食事が必要です。学校では、給食をとります。例えば、6月25日の献立は、「マールパン、牛乳、ミネストローネ、白身魚の香草フライ、ほうれんそうとコーンのソテー」です。原料は、小麦、じゃがいも、たまねぎ、にんじん、キャベツ、トマト、かぼちゃ、にんにく、バジル、ほうれんそう、とうもろこし、オリーブ油、なたね油、牛乳、ベーコン（豚肉）、ほき（白身魚）等となります。たくさんありますね。元々これらの物には、それぞれのいのちがあり、それぞれの一生があったのですが、私たち人間が生きるために、そのいのちを絶ち、食材となって私たちの前に並びます。私たちは、当たり前のように食料として、その一つ一つのいのちを食べているのです。それらのいのちを絶つことは、かわいそうではないかと思うかもしれませんが、私たちが生きるために仕方ありません。しかし、仕方がないだけですませてよいのでしょうか。



私（校長）は、以前、寿司屋で働いていました。お客さんの列が途切れることのないお店でしたが、その分、たくさんのネタが必要になりました。つまり、毎日毎日大量の魚のいのちを絶たなければなりません。その中で、とても印象に残っていることがあります。それは、毎年お正月に、板前さんがそろって魚の供養に行くことでした。自分たちが毎日締めている魚たちの供養をすることで深い感謝の気持ちを表すその行為を今でも鮮明に覚えています。

私たちが毎日食べているもの、それは、様々なもののいのちだと思うと、私たちのために、いのちをくださってありがとうございます。「いのち、いただきます。」と食前に感謝するのは、自然のなりゆきだと納得がいきます。

私たちのまわりには、食べ物だけではなく、様々な物もあります。例えば、机やイス、えんぴつやノート、着ている服やくつ等々、それらも、元々の姿から形を変え、いのちを変え、みなさんの目の前にあります。そうしたら、食べ物と同じように、深く感謝をして使わないといのちをむだにしてしまうことになります。どうか、いのちを粗末にしないで、自分が使うものや身の回りにあるものを大事に大事に使うようにしましょう。

ここまで述べてきたことは、7月の講話朝会で子供たちに伝えていきます。どうか、ご家庭でも「物や自然のいのちを大切にすること」について、お話をいただければと思います。